



支援制度やその他の事例は
ホームページをご確認ください



株式会社吉備総合電設



事例 自家消費型太陽光と蓄電池、電気自動車、V2Hシステムを一体的に導入！
再エネで地域貢献と事業発展の両立を目指す！

- 所在地: 鳥取市田園町3丁目101番地
- 代表取締役: 山下誉議
- 事業概要: 電気・消防設備の
施工保守と防災支援



Q. 再エネ導入に取り組んだきっかけは。

A. 防災分野に力を入れる中で、環境問題への対応と災害対策の関係の深さを知ったことがきっかけです。社会課題に対する姿勢が問われる今、再生可能エネルギーの導入は地域貢献と事業発展を両立でき、環境に配慮する企業としての信頼向上にもつながると考えました。

Q. 導入した設備と特徴を教えてください。

A. 鳥取本社では2024年に鳥取県・鳥取市の補助金も活用して自家消費型太陽光発電設備(11.4kW)、蓄電池(9.8kWh)、電気自動車、V2H*システムを一体的に導入しました。昼間の電力を自家消費し、夜間や停電時にも電力供給が可能です。25年春に移転新築した倉吉営業所は、ZEB*認証とBELS*最高位を取得しています。再エネ活用と省エネの両立により、二酸化炭素(CO₂)排出削減を進めています。



▲導入した自家消費型太陽光発電設備

*V2H...Vehicle to Homeの略称で、「ブイツーエイチ」と呼ぶ。電気自動車と家(建物)の間で電気を充電・給電する仕組みのこと。

*ZEB...Net Zero Energy Buildingの略称で、「ゼブ」と呼ぶ。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建物のこと。

*BELS...Building-Housing Energy-efficiency Labeling Systemの略で、建築物省エネルギー性能表示制度のこと。

Q. 再エネ導入による効果は現れていますか。

A. 発電した電力を自社で活用できるようになり、エネルギーを有効活用できる体制が整いました。倉吉営業所は、移転前に比べて床面積は増えましたが、電気使用量は半減しています。また、CO₂排出量の把握とホームページ公開にも取り組むことで透明性を高め、企業姿勢を伝えやすくなりました。新たな提案の幅が広がるなど、事業面でも前向きな変化を感じています。

Q. 脱炭素経営に取り組む魅力とは。

A. 脱炭素への取り組みは、電気代などのコスト削減に加え、企業の姿勢や信頼性を高める重要な経営戦略だと考えています。環境問題に向き合うことは企業価値の向上に直結し、新たな取り引きや事業展開を切り開く要素になると感じています。



▲山下社長

ZEBのイメージと要した経費(本社分)



活用した補助金・支援制度: 鳥取県 再エネ100宣言REAction推進事業補助金、
鳥取市 再エネ・省エネ設備導入補助金